

東日本大震災から2年5カ月たった8月7日から10日まで、専大生が石巻を訪問し、ボランティア活動を展開した。

「ごっけよう 専修大学の力を石巻へ！」をテーマに学生40人、教職員6人が参加。石巻専修大学近隣の仮設住宅南境第4団地や石巻市立山下小学校を訪問し清掃活動をした。また石巻専大キャンパスで「第1回専大祭り」を催し、住民と交流を深めた。

夏の活動は2011年3月の震災直後から毎年行っており3回目。参加学生2人の体験記を紹介しよう。

ボランティア 2学生の体験記

岡本良々歌 (法4)

……とさまざまな交流をしました。

地元の元気な子どもたちと仲良くなり、外で遊ぶなど、自分の目で見聞き。どのくらい人が集まらなかったのですが、次で体感することが多い。まるで不安でしたが、次第に打ち解け、最後は離れ活動は、地元の人との触れ合いが、生懸命準備し、当日を迎え仲良くなりました。

小さな一歩でも積み重ねて

れ合いがあり、人とのつれ合いを感じました。

当日は、石巻在住のお初日は、仮設住宅や実際に避難所として使われた小学校を訪れ、お話を聞かせていただき、当時の様子を感じることができました。

二日目は私たちが石巻に任んでいる方々をお呼び

も「専大祭り」に参加し、復興が進み、専門性の元気がうかがえますが、高知知識や技術のニーズが、話をして少しくなり、本当に小さな一歩でも積み重ねて石巻を、災害に遭った全ての人を元気にしたいと思いました。

▲ 仮設住宅で交流



とごっけよう 専修大学の力を石巻へ！

鳥羽 貴 (法4)

この夏、石巻の復興のボランティア活動に参加しました。

私は2回目の参加でしたが、震災から2年が経った今年は、以前のようにな肉休活動ではなく、仮設住宅の訪問や、私たちが企画する催し物に近隣の住民の方をお招きするといった交流が中心です。

笑顔と笑顔が重なりあって

活動2日目。仮設住宅を訪ね、現地の方々とお話することになりまし

「専大まつり」を終えて子どもたちと一緒に石巻専大キャンパスで

▲ 子どもたちと遊ぶ

思いますが。笑顔で活動できたことが、最高のボランティアにはないかを感じました。

最後に、今回このような貴重な体験の機会をくださった引率の職員の方々に、一緒に笑顔で活動することができたこと、この石巻を訪問できたこと、本当に感謝しています。



地域に貢献するSIV

防災・防犯活動、清掃、有紗代表・文3、会員21人が今夏、さまざまなボランティア推進委員会イベントに参加し、地域に貢献している。

7月28日、横浜市の新

地元野菜でオリジナル料理



経済学部・徳田賢二ゼミ(代表)遠藤里穂さん(経済3)の学生25人が、「しんゆりフードフェス」を開催した。

6日には川崎市麻生区の仏料理店「アサオガーデン」で無料試食会を開催された。ゼミ生たちが店舗ごとに創作料理のコンセプトを紹介し、抽選により親子連れ

ンバーは事前に県職員や県警の方から指導を受け、着ぐるみ姿で子ども防犯教室を実施。約2200人が参加した。キャンペーンを盛り上げた。

同じく防災・防犯活動の一環として川崎市と川崎市交通安全対策協議会が主催する「安全・安心フェア」(9月14日、川崎市の等々力緑地)にも協力。プースの運営を手伝った。

また、7月27、28の両日には川崎市多摩区の宿原4丁目自治会の、8月3、4日には同五反田自治会の盆踊り大会に参加。毎月実施している向ヶ丘遊園駅から生田キャンパスまでの通学路の清掃活動など、地域に密着した活動を展開し、自治体や近隣住民とのネットワークづくりを進めている。

など80人が来場、地元の「秋の味覚」を堪能した。

同ゼミの平田茜さん(経済3)は「今年、先輩たちが築いた地元自治会とのつながりを深め、自分たちで作成したチラシをポスティングするなど広報活動に力を注ぎました。その甲斐あって、試食会には140人の応募がありました。新百合ヶ丘周辺にはこんなにおいしいものがあることをもっと知ってもらいたい」と話した。

27日には最終イベントとしてミニシンポジウムを同区の「カフェ・カンピエロ」で開く。徳田ゼミ生は「食と地域活性化」を探り、発表を行う。